

[成果情報名]わい性台木「FDR-1」の中間台木利用によるカキ「秋王」の苗木育成技術

[要約]「秋王」の「FDR-1」中間台木苗木は、3月にヤマガキ実生台に「FDR-1」休眠枝を接ぎ、6月に伸長した新梢を中間台木長 20～30cm で切除して「秋王」休眠枝を接ぐことによって接ぎ木後 1 年で育成できる。「FDR-1」中間台木苗木の成苗率は慣行台木と同等である。

[キーワード]カキ、「秋王」、わい性台木、「FDR-1」、中間台木

[担当]福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター・苗木・花き部・苗木チーム

[代表連絡先]0943-72-2243

[分類]研究成果情報

[背景・ねらい]

福岡県で育成された「秋王」は、品質の高さから単価は高いものの、結実が不安定な問題がある。福岡県で選抜したカキわい性台木系統「FDR-1」は、わい化効果とともに、結実率向上などの優れた特性が認められており、接ぎ木樹の省力化や収量増加が期待される台木である。

しかし、「FDR-1」は挿し木等栄養繁殖が困難なことから、苗木生産者が取り組み可能で効率的な増殖技術の確立が必要である。「FDR-1」は、中間台木して利用した場合にも結実率向上効果が期待されることから、「FDR-1」を中間台木に利用することによって、慣行苗木と同様に接ぎ木後 1 年で育成する技術を確立する。

[成果の内容・特徴]

1. 「秋王」の「FDR-1」中間台木苗木は、3月に「FDR-1」休眠枝を穂木としてヤマガキ台木に切り接ぎし、6月に伸長した新梢に「秋王」休眠枝を割り接ぎすることで、慣行の接ぎ木苗木と同様に接ぎ木後 1 年で育成する技術である（図 1）。
2. ヤマガキ台木に「FDR-1」を接ぎ木した苗木は、5月末に苗丈 60cm 程度となるため、中間台木長 20～30cm を確保できる。また、接ぎ木する苗径も 7mm 程度あることから割り接ぎによって接ぎ木できる（データ略）。
3. 中間台木である「FDR-1」の接ぎ木活着率は、3月に接ぎ木した根系台木のヤマガキ実生台とは 89%、6月に接ぎ木した穂木の「秋王」とは 96% 以上である（表 1）。
4. 「FDR-1」の中間台木長は、20cm と 30cm で穂木の「秋王」との活着率、苗木の基部径、苗丈に差が認められない（表 1）。
5. 「FDR-1」中間台木苗木は、慣行の接ぎ木苗木（中間台木なし）と比較して、基部径が細いものの、成苗率には差が認められない（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. カキわい性台木「FDR-1」は、福岡県農林業総合試験場でヤマガキ台木から選抜した系統である。
2. 中間台木苗木育成に用いる穂木品種「秋王」は、径 6～7mm の休眠枝をビニールに包んで 10℃ 程度の冷蔵庫で保管する。
3. 「FDR-1」に「秋王」を接ぎ木した後は、中間台木から発生する脇芽を切除し、苗木の伸長促進を図る。

[具体的データ]

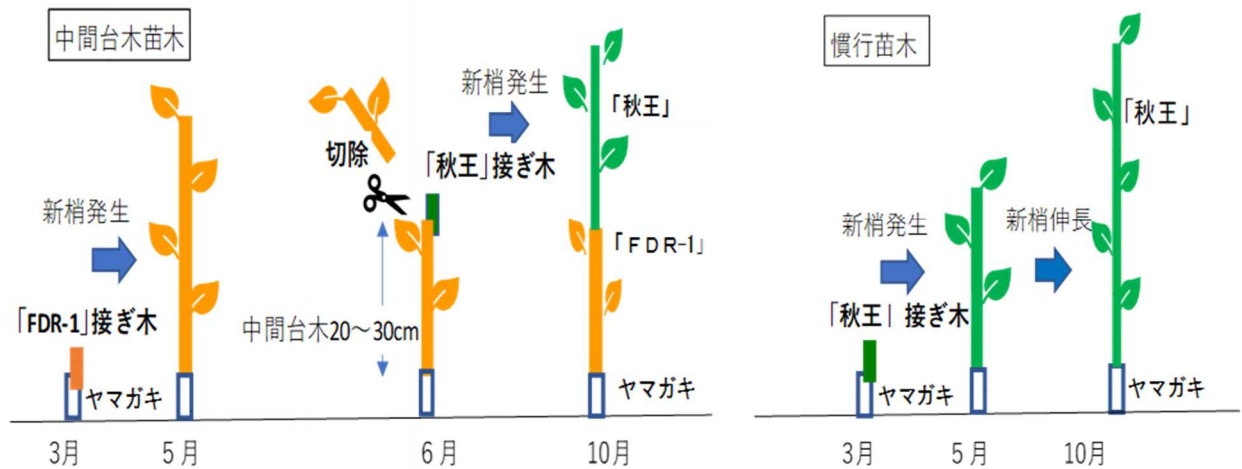


図1 「秋王」における「FDR-1」中間台木苗木の育成方法

表1 「秋王」の苗木育成における「FDR-1」中間台木利用による活着率および生育

(2021年)

中間台木	中間 台木長	活着率 ¹			苗木生育 (11月)		
		3月	6月	計	基部径 ²	苗丈	成苗率 ³
		%	%	%	mm	cm	%
「FDR-1」	20cm	89	100	89	12.0b	106a	100a
	30cm		96	85	13.0b	108a	88a
なし (慣行)	—	69	—	69	18.3a	135a	94a
		*	ns		*	ns	ns

注) 1. 3月はヤマガキ実生台に対する「FDR-1」、「秋王」、6月は「FDR-1」に対する「秋王」の接ぎ木活着率、計は最終的な活着率

2. 基部径はヤマガキ実生台との接ぎ木部上約5cm部位の径

3. 活着した苗木における接ぎ木当年11月の苗丈90cm以上の苗木の割合

4. n=17~24、t検定により*は5%水準で有意差あり、多重検定により異符号間で有意差あり

(松本和紀・朝隈英昭)

[その他]

予算区分：県特（九州北部豪雨被災産地復興支援事業）

研究期間：2020～2021年度

研究担当者：田中莉依、四宮 亮、松本和紀、井樋昭宏

発表論文等：